

北ア：槍ヶ岳 北鎌尾根

◆日程 2015年9月19日(土)～9月22日(火)

◆メンバー L：須田、日比野、雫、

9月19日(土) 天候：快晴

上高地から横尾まで。

9月20日(日) 天候：快晴

4時に起床して朝食を食べたが、外はまだ暗かったのでのんびり過ごしてから出発準備に取り掛かる。今日のコースタイムは5時間半なので焦ることはない。シルバーウィークの5連休で天気予報は毎日晴れ。さすがに人が多い。横尾の小屋の前は出発準備の登山者でごった返していた。槍沢を登るのは多分20年振りだ。横尾からしばらくは梓川沿いに緩やかに登って行く。1時間半位で槍沢ロッジ、さらに30分位でパパ平のキャンプ場に着く。パパ平にはトイレと水場ができていた。地面もきれいに整地されていて快適そうであった。殺生ヒュッテには水場が無いのでここから持てるだけ水をボッカする予定であったが、下山してきた人に水場の確認をすると、この先でも汲めるとのことで少し楽になった。大曲をすぎ、天狗原分岐の辺りになると急斜面になってくる。所々紅葉が見られる。広葉樹の数は少ないが、青空とのコントラストが素晴らしい。途中で水を汲みザックは少し重くなったが景色はどんどん良くなる。槍ヶ岳



を目の前に槍沢カールの曲線がなんともいい。12時前に殺生ヒュッテに到着。テン場は思ったよりも広く、テントの数も多い。小屋のすぐ脇のテーブルで槍を含めた素晴らしい景色を見ながら乾杯。槍ヶ岳に登る人たちの渋滞が見える。時間がまだ早いので、東鎌尾根に登ってみる。天井沢側にガスが出ていて、ブロッケン現象が現れた。ちょっとラッキー。北鎌尾根に登っている人も見える。結構人が多い。明日も人が多そうだ。
(記：日比野)

ブロッケン現象

CT：横尾出発(5:48)、一の俣(6:35～6:42)、槍沢ロッジ(7:12～7:30)、パパ平(8:00～8:15)、一本(9:05～9:23)、水場(10:09～10:30)、殺生ヒュッテ着(11:51)

9月21日(月) 天候：晴れ

3時起床。念願の北鎌尾根をやっと登れることの興奮からか夜中何回か目が覚めた。身支度を整えてテントを出て真っ暗の中ヘッドランプを照らして歩き始めた。ヒュッテ大槍まで雫さんも一緒に来てくれた。雫さんは南岳までピストンの単独行である。お互いの健闘を祈りつつ別れ、水俣乗越を目指して進む。途中、すごい勢いで後ろから迫ってくる単独行の人に抜かれ

たが、この人も北鎌尾根を行くとの事、あつという間に我々の視界から消えた。

水俣乗越からは急傾斜のガレた下りで、非常に足場が悪かった。自ら岩雪崩をおこしかねないような状態でここを登ってくるのはほとんど不可能ではないかと思うほどだった。やっと傾斜が緩くなると長い河原歩きとなった。なかなか出合に着かず河原歩きに飽きてきた頃、単独行の人が上ってきた。話しを聞くと、前日、天狗の腰掛まで行ったが体調不良のため引き返し、水俣乗越から下りと言う。あのガレた道を登るのかと思うとこちらまで気が重くなる。



天上沢

北鎌沢の出合に着くと、4人Pと単独行の人が上がってきた。貧乏沢から入って来たようだが、かなりの水量で大変だったらしい。北鎌沢



北鎌のコル～天狗の腰掛

の出合から北鎌沢のコルまでの標高差は約640m。大汗を掻きながらガンガン登る。間違えやすい二股では右股を進むが、ここで水を満タンにする。かなり上まで水はあるとの話だったが念のためここで水を補充しておいた。今日は暑いので2ℓ持って行く。ブッシュ混じりのルンゼ状斜面をひたすら登ると北鎌沢のコルに到着した。テント2張り位のスペースはある。ここでハーネスを装着する。基本的にロープを出すところはなく、ロープを使うとしたらルート間違えたか、実力不足と言わざるを得ない。

明瞭な踏み跡を辿りながら痩せ尾根を行くと天狗の腰掛に出る。明るく開けていてここにもテントを張った跡があった。独標は千丈沢側をトラバースする。不安定なザレ場を落石に注意して下りぎみにトラバースしながら独標の山腹を巻いてゆく。道を遮るように底上の岩が突き出ている右側が切れ落ちている所があり、5人Pがロープを出す準備をしていたが、我々はすんなりと通過した。一段下にしっかりしたスタンスがあるのだが、ザックが重いと怖いかもしれない。時間に余裕があれば独標のピークを踏みたいが、その時間はないので先を急いだ。

稜線上にはかなりの数のパーティーがいたため、所々渋滞していてそれを避けるためもあり、千丈沢側に巻きながら北鎌平までかなり効率的に進みことができた。2時前に北鎌平に着けたので何とか明るいうちにテン場に戻れそう。しっかり休憩を取ってから最後の大槍に向かう。一つ目のチムニーは見た目より難しく、掛かっているお助け紐を使って何とか登った。二つ目のチムニーの方が優しく、ここもノーザイルでサクッと登る。すると山頂の祠の裏側にヒョイと飛び出た。



独標トラバース後の北鎌尾根



山頂は大勢の人でごった返して、祠の前で記念撮影をする人の列と、下りの梯子に並ぶ人の列と2列行列ができていた。祠の裏側に突っ立っていると明らかに写真撮影に邪魔で、登頂を喜ぶ間もなくそそくさと記念撮影の列の最後尾に並んだ。日比野さんと登頂の握手をして二人一緒と一人ずつの写真と撮り、すぐに下りの列に並ぶ。肩の小屋から往復3時間半か

ったと言っている人たちがいたので、とにかく肩の小屋まで下りることにした。

上りと下りが交差するポイントで、上から「落！」という声があったので見上げると、両手で抱えるほどの巨大な岩が10m先から転がり落ちてくるのが見えた。危ない！！と叫びながら、日比野さんは右に、私は左に逃げた。身体をかすめる様にして岩は転がり落ちてゆき、5m下の男性の腰辺りにぶつかった。しばらくその男性はうずくまっていた動かなかったが、ハーネスを着けていて、ハーネスの上から当たった為ダメージが和らいだようだ。辺りは騒然としていて、割れた巨岩から火薬の様な匂いが漂っていた。まさに危機一髪であった。直撃を食らっていたらどうなっていたか。北鎌尾根を登り終えて、まさかこんなところで落石に会うとは思ってもしなかった。肩の小屋で休憩をして雫さんの待つ殺生ヒュッテのテマ場に向かう。ちょうど12時間の行程で無事到着した。両足にできた靴擦れをテーピングでグルグル巻きにして歩き通したが、途中テーピングが外れたようで酷い有様になっていた。天候にも恵まれ素晴らしい山行だったが、ハプニングも多く、記憶に残る山行となった。 (記：須田)

CT：3:00 起床～4:20 殺生ヒュッテ発～4:40 ヒュッテ大槍～5:00 休～5:50 水俣乗越～7:20 北鎌沢出合～8:40 2200m 付近～9:20 北鎌のコル～10:40 独標手前のコル～11:40 P 11～12:40 P 13～13:50 北鎌平～15:00 槍ヶ岳頂上～15:40 肩の小屋～16:20 殺生ヒュッテ

9月22日(日)天候：快晴

下山道も混むことが予想されたので早めの3時に起床して、暗いうちにヘッドライトの明かりで出発した。この時間はさすがに人が少なかった。30分もしないうちに明るくなってきた。槍沢から見るかっこいい槍を何度も振り返りながら下って行く。槍が見えなくなったら紅葉・高山植物・清流を眺めながら歩く。この4日間毎日いい天気で気持ち良かった。梓川沿いの樹林帯の空気がおいしい。上高地で身支度を整え、乗り継ぎよく松本まで移動。駅前のお蕎麦屋さん(古ばやし)で打ち上げ。大満足の槍ヶ岳でした。 (記：日比野)

CT：起床(3:00)、殺生ヒュッテ発(4:52)、一本(5:18～5:23)、分岐手前(6:20～6:25)、ババ平(6:54～7:02)、槍沢ロッジ(7:25～7:49)、横尾(9:00～9:18)、徳沢(10:17～10:33)、明神(11:30～11:43)、上高地着(12:40)

今回の食事＝大公開



豚の角煮キムチ丼



エビピラフ



マカロニツナサラダ



野菜カレー 鶏ささみトッピング



鮭雑炊



最後は、松本で仕上げ 満足、満足！！もう食べられない！